

戸隠・善光寺両詣で関係年譜（二沢久昭作成）

和暦	西暦	事 項
嘉祥二	八四九	学門行者、戸隠山を開山。
康平元	一〇五八	奥院より天表春命を分祀。宝光院の成立。地藏菩薩を安置。
寛治元	一〇八七	宝光院と奥院の中間に八意思兼命を分祀。中院成立。釈迦如来を安置
文治二	一一八六	天台末寺顕光寺、中央の荘園領主に年貢未納の記事(『吾妻鏡』)
貞応三	一二二四	本院仁王門の造立。このころ『阿婆縛抄』に戸隠寺の記事
貞治四	一三六五	善光寺正一坊と戸隠中院の義養坊、熊野権現で聖經を書写
応永七	一四〇〇	守護小笠原長秀、善光寺に入部。見物人の中に戸隠山の若山伏の姿があった
長祿二	一四五八	十穀僧有通編述の『戸隠山顕光寺流記』を法林房定与が修理する
寛正六	一四六五	戸隠山顕光寺と善光寺の交流盛ん。『善光寺紀行』の作者堯恵、戸隠に来山
永祿元	一五五八	武田晴信、戸隠大権現に十二郡存分の願文を捧げる
慶長十七	一六一二	徳川家康、戸隠神領一〇〇〇石を寄進。徳川家康より戸隠山法度を賜る
慶長十八	一六一三	幕府寺院統制策により、戸隠山顕光寺は天台宗寺院として位置づけられる
貞享三	一六八六	『日本行脚文集』の作者大淀三千風、戸隠神の系譜を説く
元祿五	一六九二	善光寺が江戸回向院で出開帳、後京都・大阪でも開帳。 [小林計一郎善光寺史研究以下小と略]
元祿十三	一七〇〇	江戸永代島八幡宮で開帳[小川日記]
元祿十四	一七〇一	別当見雄「両界山参詣掟」を制定する。中に「牛王札」についての記述載る。 善光寺が江戸回向院で出開帳、後京都・大阪始め回開帳[小]
正徳五	一七一五	摩詰庵雲鈴、「戸がくしの尚奥ふかし雄子の声」の句を残す
享保十四	一七二九	『千曲之真砂』の作者瀬下敬忠、戸隠三社祭礼を紹介
享保十五	一七三〇	善光寺御開帳国元開帳第一回目[小]
元文五	一七四〇	善光寺が江戸回向院で第3回目の出開帳[小]
寛保二	一七四二	善光寺御開帳国元開帳第二回目[小]
寛保三	一七四三	「奥院宝物帳」に「宝印 一」と載る宝印、現在の御印文の一つと推測される。
延享二	一七四五	善光寺御開帳国元開帳第三回目[小]
延享四	一七四七	当国開帳、神楽奉納に江戸本船町堀木・柴田が庄屋に三両二分建て替えを乞 う[高盛大御膳金子本帳控]
宝暦五	一七五五	別当恵順、永代島八幡宮へ出開帳。三年後宝光院を建立。中院社殿を修繕 [世]
宝暦九	一七五九	九頭龍権現社の棟札、戸隠神社に現存。善光寺御開帳国元開帳第四回目[小]
宝暦十二	一七六二	善光寺御開帳国元開帳第五回目[小]
安永二	一七七二	善光寺御開帳国元開帳第六回目[小]
安永七	一七七八	善光寺が第四回江戸出開帳[小]
天明四	一七八四	善光寺大門町檀徒の申し出により、栗田永代神楽献奏を受ける この年、菅江真澄善光寺に参詣後、戸隠に来る(二日滞在)
天明五	一七八五	別当普達、当国居開帳を行う。天明飢饉の救済を目指す。四月二五日善光寺 大勸進様が参詣、一泊 善光寺御開帳国元開帳第七回目[小]
天明六	一七八六	伊勢内宮の御師荒木田久老、徳善院に泊まり「蕎麦切り」のもてなしを受ける
寛政三	一七九一	善光寺御開帳国元開帳第八回目[小]
寛政五	一七九三	別当堯鏞、着任の途次善光寺参詣。大勸進、如来御開帳。『御入院道中日記』
寛政七	一七九五	女性の奥院参拝を禁ずる女人結界碑(道標)、越後道に建立[世]
寛政十一	一七九九	善光寺御開帳国元開帳第九回目[小]
享和二	一八〇二	「中院本堂宝物・道具書上帳」に「御印文(宝暦八徳善院寄進)」の記述載る 善光寺が江戸回向院で第五回目の出開帳[小]

文化元	一八〇四	神輿四基(現宝光社所蔵)五二二両で新調する。善光寺御開帳国元開帳第十回目[小]
文化五	一八〇八	一の鳥居を石で建立。越水女人堂前に道しるべ(右ゑちご道左おくのみん)建立
文化八	一八一―	信者奉納の法華経經典を納める石造納経供養塔を建立。善光寺御開帳国元開帳第十一回目[小] 深川八幡宮へ出開帳。俳人一茶も参詣。「権現やどの御耳でほととぎす」『七番日記』
文化十二	一八一五	門沢口に石の道しるべ建立
文化十三	一八一六	徳本行者西方寺から、徳善院に宿泊。中院一奥院参詣、宝光院参詣後西方寺へ帰る[徳本行者全集]
文化十四	一八一七	戸隠上野道入口一祓沢に石の道しるべ(右ハとかくし左ハウゑの道・右ちゅうみん左ほうくハウみん)
文政元	一八一八	小林一茶、戸隠に来山。宝光院善法院に宿泊「鬼の寝た穴よ朝から秋の暮」『七番日記』
文政三	一八二〇	善光寺が江戸回向院で第六回目の出開帳[小]
文政四	一八二一	善光寺御開帳国元開帳第十二回目[小]
天保三	一八三二	善光寺御開帳国元開帳第十二回目[小]
天保十一	一八四〇	善光寺御開帳国元開帳第十三回目[小]
天保十四	一八四三	『善光寺道名所図会』に戸隠の行事などの紹介記事
弘化四	一八四七	善光寺大地震で石造一の鳥居倒壊。[世] 善光寺御開帳国元開帳第十四回目[小]
安政六	一八五九	九月八日大勸進様が戸隠参詣[奥院雑籍]
慶応元	一八六五	河鍋暁斎、中社社殿天井に龍の絵を描く。善光寺大勸進滞在中を招く。 [中院雑宝記]
明治元	一八六八	善光寺御開帳国元開帳第十五回目 [小] 戸隠神社発足。午前仏式、午後御幣を立て神式の祭典旧衆徒三七人それぞれ神主・禰宜職を拝命
明治五	一八七七	旧衆徒家からの配札は禁止となる。大教宣撫の令。 善光寺御開帳国元開帳近代第一回目 [小]
明治六	一八七三	戸隠神社、県社となる。旧衆徒、戸隠神社禰宜職奉還、帰農す。久山・栗田・太田・京極、神官の資格を得る。新田邦光、修成講社を結成
明治一〇	一八七七	善光寺御開帳国元開帳近代第二回目 [小]
明治十三	一八八〇	「戸隠神社講社設立」が認可となる
明治十四	一八八一	戸隠神社御神楽再興、新たに神楽師を任命する
明治十五	一八八二	善光寺御開帳国元開帳近代第三回目 [小]
明治二十一	一八八八	善光寺御開帳国元開帳近代第四回目 [小]
明治二十二	一八八九	戸隠神社永続金の募集方担当に、旧衆徒が依頼される
明治二十三	一八九〇	戸隠神社、国幣小社に昇格。初代宮司に久山義男、禰宜に極意志富
明治二十七	一八九四	戸隠講社規約改正、講社は戸隠神社付属と成る。善光寺御開帳国元開帳近代第五回目 [小]
明治二十八	一八九五	旧衆徒は聚長として永世神社に奉仕する特権が契約される
明治三十三	一九〇〇	国幣小社昇格を祝う臨時祭を行う。式年大祭の原点、合計八日。[社務日誌] 善光寺御開帳国元開帳近代第六回目 [小]
明治三十九	一九〇六	善光寺御開帳近代第七回目 [小]
明治四十五	一九一二	善光寺御開帳近代第八回目 [小]
大正七	一九一八	神社、中心勸農施設報告書に戸隠講員は二八万五八〇〇と報告。善光寺御開帳近代第九回目 [小]

大正一三	一九三〇	「戸隠神社大祭」として、神輿渡御・宝物展・祈祷を行う [信毎]。善光寺御開帳近代第十回目 [小]
昭和五	一九三〇	未年、式年大祭を行う。以後未・丑交互が定着する。善光寺御開帳近代第十一回目 [小]
昭和九	一九三四	津村信夫、小山昌子と初めて戸隠を訪れる。以後しばしば滞在『戸隠の絵本』など執筆
昭和十一	一九三六	川端康成、戸隠神社社家宅に長期滞在。翌年小説『牧歌』の連載 九頭龍社社殿、表層雪崩で崩壊、神官一名殉職。子年、善光寺御開帳近代第十二回目 [小]
昭和十七	一九四二	この年式年大祭。久山宮司宅から出火、中社社殿が全焼。大祭は中止。
昭和二十	一九四五	ポツダム宣言受諾。神道指令により宗教団体法を廃止、宗教法人法公布執行される 宝光社集落大火。随神門のほか多くの社家が難にあう
昭和二十四	一九四九	丑年、式年大祭？善光寺御開帳近代第十三回目 [小]
昭和二十六	一九五一	卯年、善光寺御開帳近代第十四回目 [小]
昭和三十	一九五五	未年、式年大祭善光寺御開帳近代第十四回目 [小]
昭和三十六	一九六一	丑年、式年大祭善光寺御開帳近代第十五回目 [小]
昭和三十七	一九六二	雪崩のため奥社社殿(明治八年再建)・休憩所全壊、社務所半壊
昭和三十九	一九六四	奥社本殿(木造)と、社務所(鉄筋コンクリート)が再建される
昭和四十二	一九六七	善光寺御開帳近代第十六回目 [小]
昭和四十八	一九七三	丑年、式年大祭善光寺御開帳近代第十七回目参詣 270万人 [小]
昭和五十三	一九七八	奥社本殿・休憩所、雪崩で崩壊流失する
昭和五十四	一九七九	奥社本殿再建(岩盤の中に鉄筋コンクリート製の神殿を収める)来年、式年大祭の年に当たるが中止。 善光寺御開帳近代第十八回目参詣 280万人 [小]
昭和六十	一九八五	丑年、式年大祭を行う善光寺御開帳近代第十九回目参詣 307万人 [小]
平成三	一九九一	来年、式年大祭記念事業として神輿新調 [世] 善光寺御開帳近代第二十回目参詣 388万人 [小]
平成九	一九九七	丑年、式年大祭執行記念として『戸隠信仰の歴史』を刊行する 善光寺御開帳近代第二十一回目参詣 515万人 [小]
平成十五	二〇〇三	式年大祭記念事業として、中社西参道鳥居等建立・中社社殿天井画の復元・柱松行事の復活 離山仏の里帰り・図録『戸隠信仰の世界』発刊 [世] 善光寺御開帳近代第二十二回目参詣 万人
平成二十一	二〇〇九	式年大祭記念事業として、宝物館・参集館建設、図録『戸隠信仰の光』発刊 善光寺御開帳近代第二十三回目参詣 673万人 ※『戸隠信仰の歴史』本文記載以外の重要項目については ( ) 内に示す [世] とあるのは『戸隠信仰の世界』(平成十五年刊)による追加